



RI 第 2 6 1 0 地区

井波庄川ロータリークラブ会報

2008-09 年度 No.27 1月 21 日発行

事務局 〒932-0211 富山県砺波市庄川町示野 121 リプロ内

TEL&FAX 0763-82-4318、inashorc@athena.ocn.ne.jp

2008-09 年度 会長 小西 勝、幹事 高瀬 顕正

2008-09 年度 RI テーマ



「夢をかたちに」

(李東建会長)

① 例 会 記 録

② 特集「ロータリーよ どこへ行く」Ⅶ

①第 1457 回例会

平成 21 年 1 月 14 日(水) 井波文化センター

1. 点鐘 小西会長
2. ソング「我等の生業」
3. 卓話ゲスト：杉森 長(たけし)氏「第 2 の人生への提言」・・・紹介者：坂井彦就会員



4. ビジター：三吉外男君 (南砺 RC)
5. 会長の時間・・・「杉森さん、ようこそ。いつも娘さん(坂井彦就夫人)にはお世話になっております。三吉さん、お久しぶりです。お正月から食べるだけで、この雪が痩せるチャンスと、昨日除雪を 5 時間しました。今日

は体中がボキボキいています。急にやらずに普段から適度な運動をしておくべきですね。」

6. 幹事報告・・・「① 2 月 23 日、3 RC 合同例会が、ニチマ倶楽部であります。午後 6 時例会、6 時半懇親会の予定です。出欠聞いています。② 12 月のクリスマス家族例会、1 月の新年会の特別会費を徴収したいので、ご了承下さい。30 周年に向け、一般経費削減し、資金捻出のため。③ 次週 21 日、30 周年記念事業の全体会議を行います。例会終了を 14:00 の予定。各委員会は、具体的な計画案を作成して下さい。④ 30 周年記念式典の会場を、当初井波文化センターと考えていましたが、庄川水記念公園のなかのふれあいプラザに変更しました。懇親会場の三楽園とは 400m くらいの距離です。本日例会後、時間ある方は、間取り等の会場視察をします。」
7. 委員会報告・・・① 出席委員会(代理)：25 名中 15 名出席 (出席免除者 7 名中 5 名出席)・・・出席率 68.18%
8. ニコニコ BOX(高瀬 SAA 代理：本日 2 名 3,000 円)
河合副会長：ニコ BOX、はやく百万たまるといいですね。白のスタッフジャンパー、揃えたいです。
山本会員：娘の剣道大会で倉敷に行ってきました。

(1月計 26,000円：年度累計 266,000円)



卓話「第2の人生への提言」

杉森 長(たけし)氏

坂井彦就会員(紹介者)：本日は、家内の父をお呼びしました。定年退職後の生き方を上手にしておられるので、皆さんに是非聞いてもらいたいと思います。いろんな趣味を持っておられますが、なかでも陶芸は、素晴らしく小杉の「匠の里」に10年以上通い、その作品は「三楽園」でも、売れています。



杉森長(たけし)氏：本日は「いかに第2の人生を豊かに送るか」についてお話しをさせていただきます。

私は昭和1桁の生まれで、戦中戦後の混乱期を生きてきました。昭和27年佐藤工業に入社、いわゆる“土方”を41年勤め、さらに、下請け業者にいわゆる“天下り”5年して、65歳で、退職しました。人生80年時代、定年後どう楽しむか、母が97歳まで生きましたので、男はそこまで無理にしても20年くらいは、第2の人生があると、定年前から考え

ていました。終末をいかに迎えるか、生きた証として何を残すか、大事なことです。佐藤工業では、物作りの仕事でしたから、趣味も手を動かすことには気になりませんでした。盆栽やカメラ、絵や書まで、何でもやってみました。

いざ、退職して、田圃は人に預けていましたので、山の所有もあり、植林や盆栽をしてみました。そのうち、盆栽をするなら、鉢が必要で、それをいちいち買いに行くなら、自分で作ってみようかということになり、陶芸教室に通いたいと思うようになりました。そこで紹介された「匠の里」で、教室に入り、基本コースからスタートし、上級者コースに変わって続けてきました。

陶芸は、土からの温かみをもらいました。今、同じ上級者の会には40人ほどの仲間がいます。将来は自分の釜を持つことで、仲間には、独立していく人もいます。この仲間のつながりは楽しく、いろんな経歴の人がいて愉快です。昔の佐藤工業OBなどの付き合いと違い、しがらみもなく気楽です。今では、陶芸を通じていろんな趣味(例えば、私なら盆栽の手伝い)でも、付き合ったりして幸せです。

「匠の里」では、年間48,000円の施設利用料を払うと、いつでも利用できます。後は材料代くらいですが、それぞれに作品を作り、施設や“陶芸祭り”でも販売して売れるので、現在は材料などの費用がまかなえ、身銭を切らなくてもすみます。

陶芸人口は、1000万人と言われていますが、その楽しみは、①作る楽しみ、②使う楽しみ、③見る楽しみの、3つです。焼き物は、作品を使うことができ、磁器と違い、陶器は使えば使うほど味が出ます。

「三楽園」も三つの楽しみと書きますが、この陶芸も三つの楽しみがあり、何か因縁があります。

現在は、健康に注意して自分の身体をコントロールしながら、生活しています。自分にあったサプリメント(栄養補助剤)をとり、かかりつけ医にきちんとかかっています。健康であれば楽しむという気概も出てきます。陶芸は、65歳から始めましたが、50歳代から習っている人を見ると羨ましいです。皆さんも、現役時代から趣味をお持ち下さい。(最後に、

作品を披露されました。①今年の1月4日に取り出された穴釜からの徳利、②ようへん天目茶碗、③3昼夜、焼いた“篠”抹茶椀、④盃…いろいろ)



【編集後記】

今回の卓話は、久しぶりに、味わいのある話でした。人間は、年とってくるとどうしても保守的になり、いままでの財産で生きようとする傾向があるそうですが、杉森さんは、逆に人生をいかに謳歌するか、プラス思考で物事に取り組み、65歳の定年後もまだ20年は人生があるのだという考えでここまでこられたそうです。自分も、見習いたいと思いました。杉森さんの陶芸の三楽(作る・使う・観る)を、この次の「三樂園」の売店で、少し触れてみたいと思って聞いていましたら、素晴らしい作品を持参され、深く道を極めた『土の温もり』を感じることができました。まだまだ、お元気で、作品をお作り下さい。

(山本武夫)

シリーズⅦ 『ノーと言えるロータリーに』

「ロータリーよどこへ行く。昼飯たべに」

これは、皮肉屋で知られるイギリスの劇作家ジョージ・バーナード・ショーが、ロータリーを痛烈に諷刺したことで知られる、恐らくベスト3に数えられるであろうロータリー語録の中の傑作の一つである。

これは1930年、イギリスのエジンバラで開催されたR.I.B.I.(グレートブリテン及びアイルランド国際ロータリー)大会で、講演を依頼したところ、その断りのなかで次のように言ったと伝えられている。

「わざわざエジンバラまで行かなくても、私はロータリーが何処に行こうとしているのかがわかっている。昼食をしに行こうとしているのだ。いつもこの国でやっているのはその位のものだ」(J.P.ウォルシュ著「ポール・ハリス…偉大なる奉仕の先駆者」より)

このように、われわれがロータリーで耳にする言葉には、そのルーツを辿ると必ずその出所がはっきりとしているのが通常だが、どうも判然としない語録の一つに、「ロータリーにはノーがない」という言葉がある。いつ、誰が、このようなことを言ったのか、いくら調べてもわからないので、ロータリー文庫に確かめたところ、案の定、「判りません」という返事が返ってきた。そして「おそらくクラブ役員を決めるときに、都合がよいものだから、いつからとなく誰かが言ったこ

とが一人歩きして、拡がっていったものでしょう」という事であった。

近年、デモクラシーも色褪せて見る影もないが、それでも、デモクラシーの見本とされてきたロータリーに、ノーがないなんて口を封じるようなことは、あり得ないことであり、もしもそのような事が通用するとすれば、それはファシズム以外のなにものでもないといえる。

ロータリーと言えども、所詮は様々な人間の集まりである。完全な人間がないように、このような曖昧な人間がつくるものに完全なものはない。平気で間違いを犯すし、N.M.R.C.(ロータリークラブのための新モデル試験的プロジェクト)のような大愚策を考え出すこともある。ロータリーの総本山アメリカの、あの体たらくぶりの現況がなによりの証拠である。

日本のロータリーは上意下達といわれている。多数決で決まった事には、事実でない場合も多い。どう考えても間違っていると思う時には、堂々と「ノー」と言うべきである。

「ノー」と言えないばかりに、いままでどれくらい多くのロータリアンを失ってきたことか。クラブを退会するということは今まで言えなかった「ノー」の最後の抗議の叫びであることを、ロータリーは認識しなければならない。